

社協主催

ふれあい交流会

平成24年7月6日(金)

行き先は大子おやき学校・思い出浪漫館。当会から12名が参加しました。

緑豊かな大子を訪れ、旧小學校を利用したおやき学校で郷土のお菓子おやき作りの体験をしました。まずよく手を洗いエプロンを借用。皆さんよくお似合い。笑顔がこぼれます。用意されたおやき



息子さんの応援で頑張る竹原父さん

の生地を広げてかぼちゃとリンゴの餡を入れて丸めます。目印の番号をつけて完成。そのあと昼食会場の思い出浪漫館に移動、美味しい昼食をいただきました。レクリエーションはグループごとに自己紹介、市内の多くの障害者と交流を図りました。



エプロンを着て、おやき作り開始

昼食のあと先ほどのおやきが焼き上がり届けられました。各自自分の作品との対面です。一人5個のおやきをお土産に持ち帰りました。

久しぶりに参加の犬田さんから野菜作りのノウハウを教えていただき、やはり専門の方は違うなと感心しきり。例えば、トマト栽培では、根がしっかりと根付いたら、仮支柱を取り、本支柱を立てる。わき芽は小さいうちに手でこまめに取り除く。他にスイカの収穫時期などを教えていただきました。



かぼちゃ味・りんご味のおやき



昼食場所 思い出浪漫館バス



トマト作りのノウハウを講義する犬田さん



ボランティアさんのお世話でバスの乗降

野菜作りに関わって

塚田 忠 (視覚障害)

私がごきげんファームに入所して野菜作りに関わって早9ヶ月になります。

働いていく中で、本当に野菜作りは奥が深いんだという事を改めて知りました。

畑の作業は、肥料を撒いたり、畑の長さを測って、印を付けてから鋤でその印に沿って土を耕していきます。重たい肥料袋を持つて移動しながら撒き、鋤も結構な重さで、腕や腰が痛くなりますが、とてもやりがいがあります。

その後マルチという一定の間隔で穴が空いているシートを土の上に乗せて、そのシートが風で飛ばされないように、鋤を使って土を乗せて固定していきます。それが終わったら、次は種を蒔く作業です。穴が空いている所に、少し離して種を埋めていきます。そして上から土を乗せるようにかけていきます。盛りすぎても駄目なので微妙な加減が大変です。

そしてトンネル支柱と呼ばれる曲がった金属棒を一定の間隔で地面に挿ししていきます。挿し終わったら防虫

ネットと呼ばれる物を上から被せて、これもマルチと同じく、ピンと真っ直ぐ張り、風で飛ばされないように鋤で土を上からかけて固定していきます。これでやっと一つの作業が終わります。

それから、すぐに付近に雑草が生えてくるので、除草作業もあります。

ところが、間違つて人参の葉を抜いたり、玉葱の葉も抜いたりして迷惑をかけてしまいました。他の葉っぱとの区別が難しく失敗を繰り返すこともあるのですが、葉っぱの形をしっかり覚える必要がありますね。それと、分らなかつたら聞くべきですよ。そうして生長を見守りながらいよいよ収穫時期を迎えるのがとても楽しみです。日頃食べているトマト、ナス、ピーマン、ほうれんそう、その他の野菜は、作っている方々の手間隙を経て、皆さんの食卓に乗っています。註・塚田さんは目が不自由ですが、白杖でバス電車を乗り継ぎ、通勤しておられます。日焼けした肌が頑張りを物語っています。



おやき学校エプロン姿の塚田さん